

- ・巻頭コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(ふれあいフェスティバル、香川から見学、大学生ボラ)
- ・太陽と緑の会からの助成
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

204号/2024.2

Since 1984

「ボーモルのコスト病」

杉浦 良

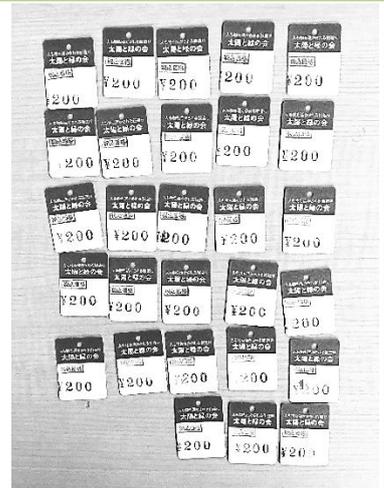
斎藤幸平氏の文章の中に「ボーモルのコスト病」という言葉がありました。オーケストラの生産性と自動車製造の生産性を比べると・・・工業化が進んだ部門では生産性が上がるが、相対的にオーケストラとか教育、介護などのエッセンシャルワークは、生産性が低いと評価される・・・役に立つものほど低賃金で人手不足になっている・・・そんな意味です。比べること自体がおかしい、と思われる方もおられるでしょうが、妙に納得感があります。

私が19歳頃から関わらせて頂いた障害福祉エリアでは、労働として考えるととても割に合わない、むしろお金では換算できないものを求める人達しかできない、そんな感じを持ってきました。



引き出しから値札を取り出し、値段を押印していく作業

「ひとはパンのみにて生きるにあらず」そんな言葉がふさわしいかどうか分かりませんが「お金も欲しいし、生きがいもやりがいも欲しい」という地平とは違うものと思っていました。「人には基本的人権の尊重が保証されている」当たり前のことですが、正論が生得的に保障される人の世でもないでしょう。むしろ基本的人権が保障されないことが多いので、基本的人権の尊重が叫ばれるのでしょうか。むしろ「愛」とか「慈悲」といったバックボーンが、日本の障害福祉エリアを支えてきたと思っています。



「福祉経験がない株式会社などの参入でグループホームのハコが増える一方で、重度者を支援できるスキルのある人材が不足していることが背景にある・・・量的拡大だけでなく質の確保が求められそうだ・・・」（重度障害者向けグループホーム-自治体3割『運営に問題』—徳島新聞 R6. 2. 18）そんな記事を見つけました。

「重度者を支援できるスキルのある人材」とはどんな人を指すのだろうか？そんな疑問が私の中にあります。おしめの替え方、腰痛になりにくい起こし方、喉に詰まらないように食べさせるやり方、車イスの操作方法、リフト付き車の操作方法などはスキルアップする意味があるでしょう。ただ私がハンディーを持ったメンバーに対する対応で、この人はすごい！と感じさせられた方たちは、スキルアップといった領域より、人間存在に対する洞察力や哲学的アプローチの深さを感じさせられました。その意味では「愛」とか「慈悲」の領域に足を入れ、「人間とは何か？」といった出口の見えない問題に関わっていたのでは、と思っています。生活できないほどの給料ではダメでしょうが、給料が高い、安定している、労働時間が短い、仕事内容が楽だとかいった要因が、障害福祉に関わる動機に繋がった方を知りません。給料が高くて安定して、労働時間が短くて仕事が楽な方がイイのは当たり前ですが、それで選んだ方は、給料が低くて労働時間も長く仕事もハードであればすぐに辞めるでしょう。そんなふるいにかけて残った方と関わらせてもらって「割に合わない仕事だが・・・だから尊い」そんなことを感じました。

重度障害者向けグループホームを各地で運営する大手の会社「恵」（東京）で報酬の不正受給疑いが判明したことが、この記事の発端となったとありました。重度障害者向けグループホームだけでなく、就労継続A型やB型事業所を各地で運営する株式会社も参入するようになった「今」があります。2000年には全国に6000カ所あったと言われた無認可・法定外作業所は、全国展開できる財力も余力も無かったでしょう。2006年に障害者自立支援法が施行されたことで、無認可・法定外作業所はNPO法人などの法人格を取り、就労継続A型B型等に移行されたところが多くありました。ただもし仮に、国の財政健全化に伴い、膨れ上がった支援給付費が削減されたとしたら、割に合わない仕事から撤退する事業所も人も増えるのでしょうか。そんな危機感があります。

お知らせ

ふれあい フェスティバル

12月9日、徳島市加茂名南小学校の体育館をお借りして、第18回ふれあいフェスティバルが行われました。

徳島県内のハンディあるメンバーたちの作業所・事業所が集まり、県南、県中央、県北、県西で「ふれあいフェスティバル」を開催して22年が過ぎました。この3年間は新型コロナ禍で中止を余儀なくされましたが、ようやく今回開催にこぎつけました。

他の作業所・事業所との、スタッフだけでなくメンバーの交流や、成人式のお祝い、地元の皆さんとの交流、皆の出し物など、日常活動では出来ない活動の広がりがあります。

これも加茂名南小学校の校長先生や東野教頭先生、そしてフル回転して頑張ってくれた実行委員の皆さんのお陰です。

無認可作業所が当たり前だった昔は、横の繋がりがあること、前を向くことが出来た時代でした。制度が整い始めると、そんな雰囲気自体がなくなりました。持ち出しが当たり前だった頃、給料が仕事に見合わないことが当たり前だった時代は、仕事自体の意義が常に自分に降りかかってきました。

時は流れ、普通の仕事になりはじめた今、第19回目の「ふれあいフェスティバル」が開催できることを願います。

豚汁頂きました

12月23日、理事のKさんがお鍋いっぱい豚汁を作ってくださいました。「今年は去年よりも肉を多めにしました」とKさん。

翌日曜日のお昼に皆で頂きました。

1人お皿に1杯ずつ。メンバーのNさんが一人ずつよそってくれます。ご飯はこの日に限り、お替わり自由としました。

寒い中での作業で冷えた体が、美味しい豚汁であたたまりました。

Kさん、すてきなクリスマスプレゼントをありがとうございました。



香川から見学

1月20日午後1時半から5時過ぎまで、四国学院大学の富島先生が学生7人を引き連れ研修に来られました。就職も決まった4年生から入りたての1年生まで、ハートランドあっぴるで昼食後の来所です。

「人も物も活かされる街づくりの活動を続けて40年目」と題して、使われなくなった豚小屋からのスタート時から、20年程経った後の火災、そして復興から現在に至る画像を見ていただきながら、公的助成ゼロ時代から、全運営費約80%は皆さんに支えられながらも自力捻出している現在の在り方をお話しました。

「新型コロナ禍で売り上げが減少、公的資金の割合が増えたように見えますが、そうではなくむしろ減少しています。8割強は自主事業で捻出、1割5分は公的資金、残りは会費・寄付・その他の助成金で今まで運営してきました。ようやく3年たって元に戻りつつあります・・・」

そんなプレゼンの後

「ここは誰が職員か利用者か、わからんところがすごい・・・」

そんな有難い言葉が聞けました。徳島ラーメンを食べて善通寺に帰るとのこと、買物もしていただき有難うございました。



讃岐うどん頂きました

1月21日(日)の昼食は理事のMさんが香川から送って下さった山田屋の讃岐うどんでした。正会員のTさんから頂いた焼き豚、半熟卵、ネギ、ちくわ、わかめなどをトッピングしたかけうどん。調理は代表の杉浦が担当。皆とても楽しみにしていました。メンバーのSさんも満面の笑み。

Mさん、Tさん、ありがとうございました。

軽ワンボックス 22年の歴史に幕

白バンの名前で皆に親しまれた平成12年初年度登録(当会には平成14年から)の軽自動車ホンダアクティバンを廃車し、平成27年初年度登録の軽トラが後を引き継ぎました。

22年間、メンバーの送迎や自転車の運搬など大活躍し、気が付けば走行19万3000kmとなりました。次の車検を受けるかどうか悩みましたが、タイミングベルト、ウォーターポンプ等の交換や集中ドアロックの不良等もあり断念しました。M自動車さんのお陰でエンジンは良好、走行には問題がありませんが、お疲れ様でした。

大学生ボランティア

四国大学(徳島市)4年生のSさんとAさんがボランティアとして活動に参加してくれました。

Sさんは2月9日から18日まで8日間、リユース商品のショーカード記入(商品名・価格)や香水・化粧品陳列準備を手伝ってくれました。最終日にはお菓子の差し入れまで頂き、本当に有難うございました。

Aさんは2月15日から、奥の倉庫で、トラックからの荷下ろし、仕分け準備、衣料品の値札付け・入れ替え・補充などを手伝ってくれています。

2人が参加して下さい、メンバーさんにとっても良い刺激になっている、と思います。



お米を寄贈

12月5日、市民の皆様から頂いた玄米300kgを、フードバンクとくしまさんに持ち込みさせて頂きました。フードバンクとくしまさんでは生活困窮者への越冬支援活動の一環として、年末にお米を小袋に詰めて配布しており、そのお役に立てればと思います。

お弁当頂きました

2月3日、社会福祉法人ハートランド街の中の喫茶店あつぷるの山下千里さんよりたくさんのお弁当を頂きました。作業所のメンバーさんに一人ひとつずつ配らせて頂きました。節分で豆のおまけもついて、皆、嬉しそうに持って帰って行きました。

メンバーさんの中には、一人暮らしの方、兄弟と二人暮らしの方、同居の親御さんがご高齢のため自分で夕食を用意しなければいけない方、などいろいろな方がいて、何よりのプレゼントになりました。本当に有難うございました。

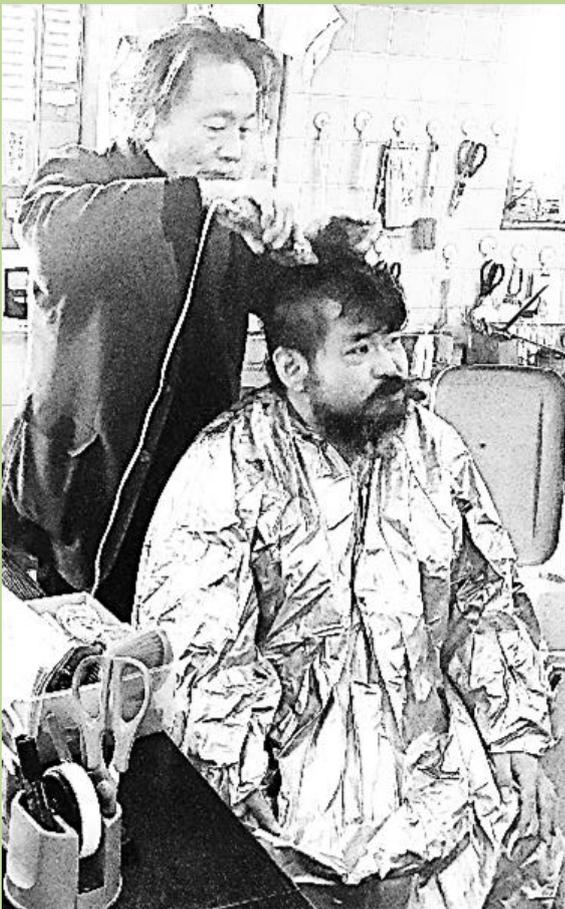
太陽と緑の会からの助成(第60回)

第60回太陽と緑の会福祉事業団からの助成
徳島市資源ごみ回収事業に係る奨励金(古紙、
鉄屑、空き缶1キロに対し3円、廃食油1キ
ロに対して20円)令和4年度後期分(令和5
年度前期配分)7万9800円が当会の太陽と緑
の会福祉事業団に支給されました。

これを各分野で非営利活動に取り組んでお
られる以下の団体の皆様に配分させて頂くこ
とに致しました。(敬称略)

①障害者地域福祉活動への助成

NPO法人聴覚・ろう重複障害者生活支援セ
ンター(地域活動支援センターの運営など)3000円
共同連(差別とたたかう共同体全国連合)(社会的
事業所の法制化に向けた取り組みなど)2万5000円



メンバーYさんの散髪。「そろそろ散髪は?」「まだいける」
そんな問答が幾度となく繰り返され、半年が過ぎ…

②社会福祉活動への助成

徳島いのちの希望(社会福祉法人徳島県自
殺予防協会)(電話による相談活動)1万円
大阪釜ヶ崎喜望の家(野宿を余儀なくさ
れた高齢日雇労働者の支援活動)5000円
徳島市社会福祉協議会5000円
社会福祉法人白川学園(京都市)2100円
(玄米300kg支援の精米代として)

③国際協力活動への助成

ペシャワール会(アフガニスタン等での医
療事業、水源確保事業、農業計画)1万円
モヨチルドレンセンターを支える会
(ケニアにおけるストリート・チルド
レンの支援活動)5313円

④環境保全活動への助成

NPO法人 新町川を守る会(花ロー
ドプロジェクト)3000円

⑤その他の活動への助成

NPO法人日本NPOセンター(NPO
の社会的基盤の強化を図る活動)1万円

支援金振込手数料1387円

太陽と緑の会福祉事業団の助成活動
は平成5年度よりスタートしました。
各分野で非営利活動に取り組んでおら
れる個人・団体の皆様を対象に年2回、
30年間で累計1632万6156円の助成
を行ってきました。

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2023年12月1日～2024年1月31日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

鎌田、友成、匿名、筒井、久次米、竹田、田村、三好商事自動車部、福島、米田、小林
(郵便振替口座) 平島、大谷、西澤、森永、太田、阪野、杉本、瀧倉、荻野、森

品物を持って来て下さった皆様 (郵送含む)

○徳島市○山田、近藤、元木、佐野、佐藤、江本、村田、大迫、高尾、武田、松井、岸上、井関、原田、豊田、志摩、三木、高島、石川、芝崎、森田、杉本、福田、福永、大上、坂東、本田、西村、河野、太田、都島、手塚、田中、岡田、武市、長江、柏原、美馬、新居、蒲原、別所、笠井、河崎、辻野、小松、青木、林、山中、佐藤、村野、谷川、椎野、平山、原田、宇山、松永、篠原、栗野、谷口、山内、豊米○吉野川市○深見、中原、竹内、原、佐々木、山脇、椎野、野田、田村、山田○北島町○小西、来見○美馬市○工藤○神山町○阿部、海老名○小松島市○浜口、林森、米田○阿南市○服部○板野町○平野、中村、武田○藍住町○平岡、下岡、曾我、白石、堀内、奥村○上板町○安岡○鳴門市○安宅、新口○板野町○稲垣○東みよし町○楠目○東京都○野々瀬、三木、小山、高橋○愛媛県○浜田○愛知県○松浦○大阪府○吉岡○京都府○木村○香川県○松村

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○田中、中田、竹田、宇治製薬、松原、森田、岡崎、梅寿、奥山、英、平岡、安芸、田村、大北、大櫛内科、土肥、ヨシザキ、宮越、松村、泉、山上、三宅、新居、岡久、岩原、可原、矢本、斎藤、平田、佐々木、吉村、坂下、久次米、松原、大櫛、岡本、上村、武田、中村、渡部、小林、八村、出口、穴吹コミュニティ、内田、加来、伊藤、久米、宮迫、森本、大高、宮越、矢部、橋本、真鍋、橘、向井、応神小学校、長野、坂東、杉山、松家、アルファステイツ佐古川、近藤整形外科、藤永、鎌田、三木、植田、鈴江、きた、山口、磯塚、岡崎、横山、松尾、三浦、領家、檜原、来島、穂田、久保、吉田、高野、堀江、森、林、谷川、林田、(株)ライフリビング 松友、長澤、香川、徳島繊維卸団地、岸、松崎、山本、藤沢、吉岡、川人、高島、甚上、増田○鳴門市○佐藤、久龍、大和、元木、高内、原田、島、鍋島、米田○藍住町○勝野、吉田、阿部、藍原、野本、○吉野川市○竹沢、吉川、筒井○北島町○宮地○松茂町○岡、上西、石田○石井町○三木、原、岡本、矢田、米田、友成、森○小松島市○木下、タイチ、姫田、水口○上板町○真鍋○板野町○ナガハタ、エコリース

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられます。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」とご記入頂ければ幸いです。

編集後記～群像

メンバーNさん74才。毎日休まずに電話担当の作業を続けることで生活のリズムがつき、大きな病気をすることもなく元気に過ごしています。ただお客様からの電話を事務所へ転送する際に誤って電話を切ってしまったり(本当にごめんなさい…)、休み明けは不手際がやや多めです。

レジ担当メンバーDさん。手際よく作業を進め、細かい気遣いも怠らない姿に、パート職員さんでさえ「どこにハンディがあるの?」と思いがちですが、実はかなり繊細なハートの持ち主。目配り気配りは欠かせません。作業所に通い始めて28年、その間、一度も入院をしていないことが一番の勲章かもしれません。

新館売場担当メンバーKさん50代。職員の見ているところでは作業のふりをし、職員がいなくなると作業をさぼっていた若かりし頃に通所を始め24年。リユース商品の陳列・整理・入れ替えから、昼食の準備、日曜日のカレーの食材カットなど、指示待ちではなく、自ら気がつき考えて行動する、頼れる兄貴(おっちゃん?)になりました。時々隠れてポータブルゲームで遊ぶのは昔の名残でしょうか。

衣類担当メンバーのAさん30代。お客様の顔と名前を覚えるのが得意で、お孫さんの名前からペットの名前まで、よく覚えていきます。お客様とのおしゃべりが楽しくて、作業がはかどらないこともあります。処分品や古紙の運搬など気が付いてくれることも増

えてきました。トイレ掃除、マットの掃除も担当しています。

奥の倉庫で作業しているメンバーFさん。還暦。通所32年。(悪意はないのですが)路上で急にツバを吐く癖があり、たまたま近くにいたお客様を驚かせてしまうことも(本当にごめんなさい…)。トラックからの荷下ろし、仕分け準備、50円商品の陳列、仕分けしたリユース品の運搬、古紙や処分品の積み込みなどを担当。長年の相棒であるパート職員Kさんからは辛口のコメントが多く、なかなか褒めてもらえませんが…。

メンバーMさん。還暦間近。通所21年。職員さんとおしゃべりを楽しみながら、値札やショーカードのスタンプ押し、値札付け、仕分けの準備等、いろいろな作業を少しずつやってくれています。作業後のお買い物(リユース品)も楽しみのひとつです。

(トラックで品物を頂きに行く)回収作業担当メンバーTさん50代。大好きなパート職員Yさんへの「帰りの挨拶」で、Yさんの名前を大声で連呼してお客様を驚かせてしまうことも。Yさんが家庭の事情でしばらくお休みしていたときは、意気消沈して本当に寂しそうでした。その人の存在感というものは、お休みしたときによく分かります。

当会のリユース・リサイクルの活動も今年で40年。そこにはメンバーさん一人一人の歩んできた歴史が重なっています。(小山)

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1
TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田

年会費：正会員 1万円 (総会議決権)

準会員 1,000円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会